

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25630254

研究課題名(和文) 市民主導型震災復興まちづくり計画に関する実践的研究～名取市閉上地区を事例として～

研究課題名(英文) A Practical Study through Reconstruction Community Development Planning After the GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE by the Citizen Initiative -A case study on the Yuriage area in Natori City-

研究代表者

日詰 博文 (HIZUME, HIROFUMI)

早稲田大学・理工学術院総合研究所(理工学研究所)・その他(招聘研究員)

研究者番号：40580296

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ゆりあげ港朝市を構成する施設と組合に関する再建過程の記録および早期朝市復興に至った経緯をもとに、災害危険区域内の現地再建による復興過程にある商業活動がもたらす地域の貢献を明らかにすることを目的とする。4-1では再建時に組合が受けた支援を、4-2章では組合と他地域・他団体との連携を、4-3章では朝市利用圏域のニーズとそれを取り入れていた朝市の自助努力を確認した。それらより、再建の過程に関する経緯と課題点を踏まえ本研究における地域貢献についての知見として、段階的な再建過程、復興需要の実現、他組織との連携の重層化が、地域貢献につながる要素であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This paper has two main objectives: to clarify the reconstruction process of YWMM itself, and also to clarify its role in the reconstruction process of the region. Main contents of the paper areas follows. In the chapter 4-1, the outline and the process of the reconstruction of YWMM are reported, especially in the aspect of facilities, funds and various supports. In the chapter 4-2, the situations of YWMM before and after the earthquake are analyzed, based on the general meeting report of YWMM, which includes several data such as organizations of the union members, number of events, annual activities and the balance of payments. In the chapter 4-3, through the questionnaires survey in YWMM, the demands of visitors toward YWMM and the region is analyzed, from which the demands of local residents and visitors in the process of reconstruction are clarified.

研究分野：建築計画 都市計画

キーワード：復興過程 津波 地域貢献 朝市 災害危険区域

1. 研究開始当初の背景

(1)研究開始は震災から2年後であり、各地で復興の足がかりが芽生え始めた時期であった。研究地区においても研究対象となる地区が災害危険区域の指定、住宅再建候補地が2転3転するなど、研究対象の選定にも慎重を期する必要があった。

2. 研究の目的

(1)ゆりあげ港朝市[以降、朝市]は宮城県名取市閑上地区に位置し東日本大震災から被災3週間後に暫定的再開、1年後に仮設で現地開催、その後本設による施設の現地再建と、ゆりあげ港朝市協同組合[以降、組合]による民主導による朝市復興を実現して来た。施設の再建場所は竣工後2013年12月に災害危険区域に指定されるものの、定期(日・祝日)に数千人規模の集客を得ている。朝市は30年以上、地域住民や地域外の人々に親しまれた商業活動である。本研究は、朝市を構成する施設と組合に関する再建過程の記録および早期朝市復興に至った経緯をもとに、災害危険区域内の現地再建による復興過程にある商業活動がもたらす場の地域貢献を明らかにすることを目的とする。

(2)研究対象の朝市が災害危険区域内の再建施設であり、中心市街地の再建と異なる。各々の施設再建が災害危険区域復興を特徴づける存在となり得るため、災害危険区域内の再建施設事例を研究することは、今後、災害危険区域復興の計画立案において有用である。本研究は以上の観点より被災後の4年間(2013~2016年)に行った調査・アンケート調査より分析を行っている。

3. 研究の方法

(1)本研究における朝市による[地域貢献]は、災害危険区域内の施設再建により朝市が生む集客機会を介して、来場者・地域住民・支援者・事業者が閑上地区を直接、間接的に見聞することで、朝市含む本被災地の復興進捗を知り、新たな行動(再来訪・再建・支援・起業)を促すこと、と定義する。4-1では組合や施設の設計者より得た図面資料、組合員名簿等より、再建経緯と施設の形成過程をまとめ、再建時に組合がうけた支援を明らかにする。4-2では組合の総会資料より震災前後の営業実績をまとめ、地域・他団体との連携を明らかにする。4-3ではTable 2のプレオープン時の来場者アンケートならびにTable 1の朝市を利用する客層の地域ニーズ調査より朝市への要望とその後の動向・対応をまとめ、現地再建した朝市に求められる役割を明らかにする。

Table 1 アンケートの項目(地域ニーズ, 2013.3)

アンケートの項目(地域ニーズ, 2013)
Q1.あなたご自身について(性別、世代)
Q2.どちらにお住まいですか?
Q3.ゆりあげ港朝市はご存知ですか?
Q4.ゆりあげ港朝市に行ったことはありますか?
Q5.Q4で「ある」と答えた方はどれくらいの頻度で行きましたか?
Q6.今年の5月4日にゆりあげ港朝市が従来の場所でオープンすることは知っていますか?
Q7.新規オープンするゆりあげ港朝市に対して期待することをお聞かせください。(自由回答)
Q8.新規オープンするゆりあげ港朝市にどんなものがあつたらいいと思いますか?(自由回答)
Q9.新規オープンするゆりあげ港朝市の付近に他に必要施設はありますか?(自由回答)
Q10.閑上の「日和山」に行ったことはありますか?
Q11.Q10で「ある」と答えた方は、その「日和山」に何か必要だと思いますか?(自由回答)
Q12.「日和山」と「ゆりあげ港朝市」を一体として構築するはどうかどう思いますか?(自由回答)
Q13.再建する「ゆりあげ港朝市」と今後の閑上に対し要望やご意見をお願いします。(自由回答)

Table 2 アンケートの項目(プレオープン, 2013.5)

アンケートの項目(プレオープン, 2013)
Q1.あなたご自身について(性別、世代)
Q2.どちらにお住まいですか?
Q3.朝市へはどの交通手段を使用しましたか?
Q4.朝市への交通手段として、今後、整備すべきものはありますか?(複数回答可)
Q5.ゆりあげ港朝市を今後どのくらいの頻度で利用したいと思いますか?
Q6.朝市では一人あたりいくらくらいのお金を使用しましたか?

4. 研究成果

4-1. 再建に組合がうけた支援について

(1)本章では、組合や施設の設計者からの図面資料、組合員名簿等より、再建の経緯をまとめ、再建にあたり、組合がうけた支援の全容を明らかにする。

施設立地と避難経路について

(2)災害危険区域内に施設は立地するため組合は現地再建に先立ち、組合員を中心に避難訓練を幾度となく実施し避難経路の確保に努めている。Fig.1 に施設からの避難経路となる周辺環境に関して示す。

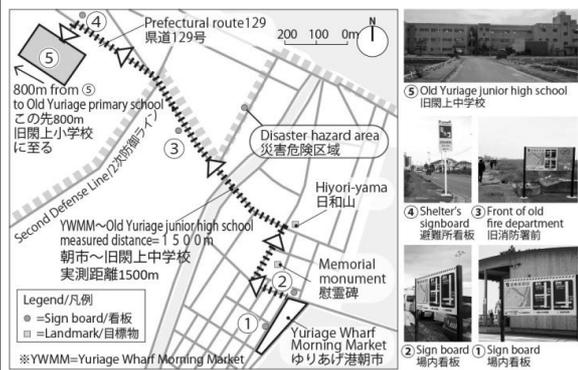


Fig.1 施設からの避難経路

施設再建の資金と計画から建設まで

(3)次に、Fig.2 として、施設再建の変遷を示す。施設は、店舗棟・飲食棟・交流棟で構成され、駐車場は臨時的に市有地と民有地を利用している。各段階での特徴を次に示す。

初期、計画時は被災市街地復興推進地域内の建築行為等の制限に伴う建築許可について市と協議を進める中、先行して計画案を検討していた。

第1期は、地元建設会社が市へ打診し、市と共同応募したカナダからの復興支援金を受託し、それに伴い名取市都市計画決定前に現地再建が決定した。事業採択後に、地元建設会社・建築家・名取市復興まちづくり課と共に、店舗内容や事業計画を検証し合同調整会議を経て、マスタープランを決定した。資金の相違等の諸事情により建設時期をわけ、先行して交流棟・店舗棟一部の建設を進めた。

第2期は、敷地は第1期と一体とせず店舗棟間で線引きし所有が区分されている。震災後、建設コストの高騰・職人不足の煽りで厳しい状況の中、施工者決定後の減額調整、組合による外装塗装ワークショップ、床材メーカーからの床材の寄付など、関係者の努力により完成に至っている。店舗等の特徴として木の外装材が使用され、建物側部の可動式テントは、朝市開催時に利用され、建築面積の倍の売り場を確保する事に寄与し、建物とテントに一体感が生まれる計画となっている。

第3期では、ウッドデッキを前述の募金やファンドレイジングをもとに設置し、多くの人に利用され、憩いの場や交流の場を来場者に提供している。公共性を有する観点より地代なしで市有地にウッドデッキを設置し利用開放している。

第4期として、施設前の沿岸は、県管轄の港湾工事により3mの防潮堤設置が進んでいることを市経由で組合は存知後、県の防潮堤高さの変更が容易でないことを確認。市道路を階段状に盛り土・舗装することで防潮堤と地面高さの差を1m以下に抑えるよう市へ要望を出し協議の末、2015年度の市街地復興効果促進事業の一環として事業化され建設中である。

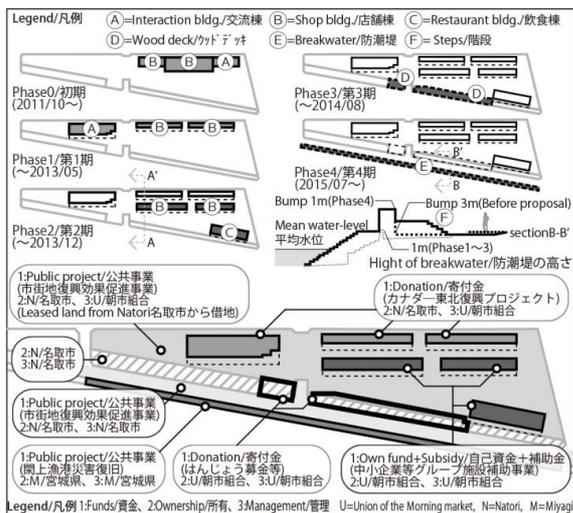


Fig.2 施設再建の変遷

4-2. 震災前後の営業実績に基づく分析

(4)本章では組合で年に一度行われる通常総会資料を基に組合の組織構成、組合の活動実態から朝市の動向を考察する。

通常総会議案書の項目

(5)組合の2009年度から2015年度の通常総会議案書[以降、議案書]を基に調査対象項目をTable 3のように抽出した。詳細な記述があるものは2011年度以降であり、震災(2011年度)以前の資料は過半が紛失、震災前の2009、2010年度は決算報告書のみである。

Table 3 本章の対象項目と期間

Contents of transition graph/推移グラフの項目	09.5~10.4	10.5~11.4	11.5~12.4	12.5~13.4	13.5~14.4	14.5~15.4
Organization/組織: ① Member's Join, Leave, Investment/組合員加入・脱退・出資 ② Official register/役員名簿						
Activity/活動: ③ Business outline and report/事業概要・報告 ④ Sponsorship and support/協賛・支援						
Balance of payments/収支: ⑤ Settlement of balance/収支決算						
期間 Period	09.5~10.4	10.5~11.4	11.5~12.4	12.5~13.4	13.5~14.4	14.5~15.4
年度 Fiscal year	2009	2010	2011	2012	2013	2014
総会(Month)	06	06	09	06	06	06
General meeting(Month)			震災 Earthquake disaster			

中小企業等グループ施設補助事業の採択事業内の位置づけ

(6)組合はカナダからの復興支援金のほか、水産(食品)加工業型の機能を有する中小企業等グループとして中小企業庁の補助金を活用し再建している。採択時期は2013年6次であり採択時期は震災から2年経過していた。これはグループ補助金採択前にカナダからの復興支援金により一部先行して施設の建設があったためであり、Table 4より組合は

採択事業グループの中でも最少単位の構成員数からなる。これは組合が協同組合であり、既存組織での参加のためガバナンスも比較的容易と伺える反面、中小企業グループとしては小規模だとわかる。また、名取市にかかわる採択事業グループとして、商店機能の閉上さいかい市場振興会、水産加工機能の閉上水産加工業組合、名取地区物流基盤促進グループがある。その中で、閉上さいかい市場振興会(15社中3社)と閉上水産加工業組合(10社中4社)の構成員の一部は組合員の事業者であった。閉上さいかい市場振興会は朝市より内陸に約6kmの災害危険区域外にある仮説商店街を運営しており、朝市双方の案内、バスツアーの共同実施など連携を図っている。水産加工品の製造業者による閉上水産加工業組合は、宮城県水産加工品品評会に組合として商品を応募し受賞を多数輩出し、それらの商品が朝市にて販売も行い販売促進を担っている。以上のように朝市と他団体の連携の存在を示した。

Table 4 宮城県内採択事業グループ構成員数 (塗部に組合該当)

Number of member in business groups 構成員数	16316091															Total 計				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15					
1: Supply chain type/サプライチェーン型	12	5	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	26				
2: Large economic and employment effects type/経済・雇用効果大型	2								1	1	1	1	1	1	1	6				
3: Important company integration in the region/地域に重要な企業集積型	6	6	12	12	9	10	8	7	8	2	9	2	1	5	28	10	3	4	142	
4: Fisheries (food) processing industry 水産(食品)加工業型	2					2		1	2	2	1						2	4	3	19
5: Shopping district type 商店街型																				7

組合の震災前後の活動実態について

(7)本節では、組合として実施している活動実態に焦点を当てる。Table 5、Table 6に震災前後での事業実施概要、事業の種類、集計結果を示す。

Table 5 イベント数集計(2011年度以降)

Event in YWMM 朝市場内事業	(fiscal) 2011	2012	2013	2014	Community sponsorship and Support/地域協賛・支援活動	(fiscal) 2011	2012	2013	2014
A: Festival of specialty/特産品祭り	3	2	7	5	G: Sponsorship of Natori/名取市協賛	6	1	4	4
B: Regular project/定期企画	6	2	0	13	H: Sponsorship of Yuriage/閉上地区協賛	3	0	1	1
C: Support for Affected Areas/被災地支援	2	3	3	0	I: Support of evacuation center/避難所支援	1	0	0	0
D: Planning from other regions/地域外特以企画	0	2	3	1	J: Event for support of affected areas/震災応援イベント	8	4	7	3
E: Experience, Tasting party, Convention/体験・試食会・大会	4	6	6	3	K: Lecture on experience of the disaster/震災体験講演	6	5	11	6
F: Annual, Memorial event/年中・記念行事	6	7	9	9	Subtotal/小計	24	10	23	14
Subtotal/小計	21	22	28	31	Total合計	45	32	51	45

Table 6 事業報告年間活動の種類(2011年度以降)

Event in YWMM/朝市場内事業	(fiscal/年度)			
mo./月	2011	2012	2013	2014
5			F8	B2, B3, B4, F12
6			A4	A4, B4
7			F9, C6, D3	F9, D6, A6, B4
8	A1, B1		E7, E8, A5, E9, E10	A1, B4
9		A1, B1	A1, D4, A6	
10	C1, B1	C3, C4	A7	A7, B4
11	A2, B1, E1	E4, A2, B1, E1	F10	A2, B4
12	F1	F1	F11, F1, D5, C7	F13, E11, B4, F1
1	F2, F3, F4, E2, F5	F2, F3, F4, E5, F5, F7	F2, F3, F4, E5, F5	F2, F3, F4, E11, F5
2	F6, E3, B1	E6	A8	
3	C2	F6, E3, D1, D2, E1	F6, E3	F6, E3, B4
4	E1, B1, A3, B1	C5	C8, A3	B1, B4, A3, B4

Legend: A (1~8) Festival of specialty/特産品祭り D (1~6) Planning from other regions/地域外特以企画  
 B (1~4) Regular project/定期企画 E (1~11) Experience, Tasting party, Convention/体験・試食会・大会  
 C (1~8) Support for Affected Areas/被災地支援 F (1~13) Annual, Memorial event/年中・記念行事

Table 5より組合は被災後に、地域への支援活動並びに遠方からの支援活動として朝市会場を提供するなど、地域内外の支援や交流を積極的に図っている。加えて、代表理事を筆頭に各役員は、講演・震災地応援市など東北のみならず全国へ出向き、震災の教訓を伝え、遠方と閉上を繋げる活動を行っている。

Table 6 をみると、2011、2012 年度は 5～7 月に活動がなく、年間を通して催事の開始は 2013 年度からとなっており、組合の運営体制が整った事がうかがえる。2014 年度には競り市(B4)など定期企画で集客を維持・向上するための事業活動が増え、本来の組合活動の回復傾向が伺える。

共同事業の震災・再建前後の収支変動

(8)本節では Fig.3 のように組合の収支概要を示し、営業実績の観点から震災・再建前後の状況について分析する。



Fig.3 収支概要(2009 年度以降)

Table 7 震災以降の営業実績抜粋(2011 年度以降)

fiscal year/年度	Sales performance/営業実績
2011	Event held in GW/GWi イベント開催 Revival event before earthquake/震災以前のイベント復活
2012	Installation of five containers for sales/売場用コンテナ5棟設置 Homepage, Mail members started/ホームページ、メール会員導入
2013	20 fireplace for barbecue/炭火炉端20箇所整備 Auction sale start/競り市の開催 Business hours extension from 10 to 13 o'clock (start at 6 o'clock)/営業時間延長(10時から13時へ(開始6時)) Shuttle bus to temporary housing/シャトルバスを仮設住宅へ運行
2014	Auction start time was changed from 9 to 10 o'clock /競り市開始時間を9時から10時へ移行 Jazz festival held/ジャズフェス開催

(9)Fig.3 より 正味資産の変動は 2010 年度震災、2013 年度施設再建が起因している。2013 年以降における正味資産の増は、賦課金収入、共同購買・販売・宣伝収支の増による。賦課金収入は施設建設に伴い建物使用、端角地等の立地により追加料が発生し、収入が増となっている。

(10)Table 7 にある 2013 年度からの営業時間延長(6 時から 10 時を 6 時から 13 時へ)は施設・冷蔵設備の充実により可能になった。その結果、炉端焼きの企画と共に若い家族連れ・地元の若者たち等、若年層の来場者獲得につながった。Fig.3 より 共同購買・販売・宣伝収支は交流棟の建設前に共同販売は、ほぼない状態であった。平日に開店する交流棟に閑上の被災地視察者・観光客が訪れ、地域の案内所としての役割も担い収益を上げている。再建した 2013 年度をピークに減価償却等により 固定資産は以降減となる。事業外収支より、2010 年度は大きく減となっているが内訳は震災損失のほか、災害援助費である。事業報告からは伺えなかった、震災直後 2 か月での災害援助活動が確認される。2011 年度以降は事業外収支が増となり各方面から様々な支援を受けている事がわかる。以上より、収支から各事業の朝市への波及効果を把握した。

4-3. 地域が求める機能に関して[朝市復興へのニーズ、来場者の把握]

(11)本章では、地域が求める朝市や閑上地区の機能に関するニーズを把握するため、各種アンケート調査を実施した。

来場者の把握

(12)本節では、2013 年に行ったアンケート調査をもとに朝市の来場者の属性の把握を補足的に行う。2013 年のプレオープン(5 月 4～5 日)において、朝市に関して、来場者にアンケート調査(被験者 1058、回収率 100%・面接法 屋外にテントを設置して行う)を実施した。Table 2 にアンケート内容を示し、来場者の属性は Fig.4 に示す結果となった。

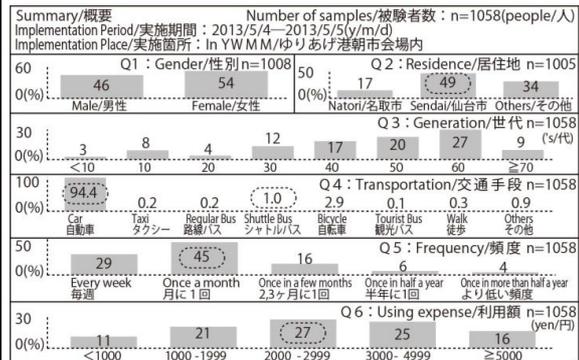


Fig.4 調査概要と朝市来場者について

震災 1 年後の朝市復興へのニーズ

(13)本節では、2013 年に行った朝市の利用に関する地域のニーズ調査をもとに、地域が求める朝市の機能について考察し、再建後 3 年を経て朝市がそれらのニーズに関連する動向を示した。地域ニーズ調査(被験者 515、回収率 100%・面接法 被災住宅/市内企業は郵送法)として朝市の利用圏域となる各箇所からアンケートを回収した。



Fig.5 朝市利用圏域被験者の構成と分布

(14)Table 1 にアンケート内容を示し、Fig.5 中段には 5 類型(A～E)に分けた被験者数を示し、下段にはその詳細のアンケート実施場所を示している。特徴としては、前述の来場者アンケートに比べ、より地域内の人々へのアンケートとなる。Fig.6 に示す円グラフにより結果を示した。Fig.6 下段の Q4 と Q10 から朝市のみ行ったことがある人数が、慰霊の場所として一躍有名になっていた閑上の日和山にのみ行ったことがある人数より多い点からも、閑上地区内にて朝市が認知されていることがわかった。Fig.6 の Q5 より、毎週朝市に利用する割合は 26%であり、朝市を近隣型商店街として利用する割合は少ない事がわかった。Fig.4 より来場者は仙台出身者

が多数を占めていることが分かっているが、属性[A~E]を考慮し頻度 Q5 より、来場の頻度も様々で、近隣型商店街的な側面とレジャーや観光地としての側面が混在しており、朝市への来場の目的の多様さがうかがえた。

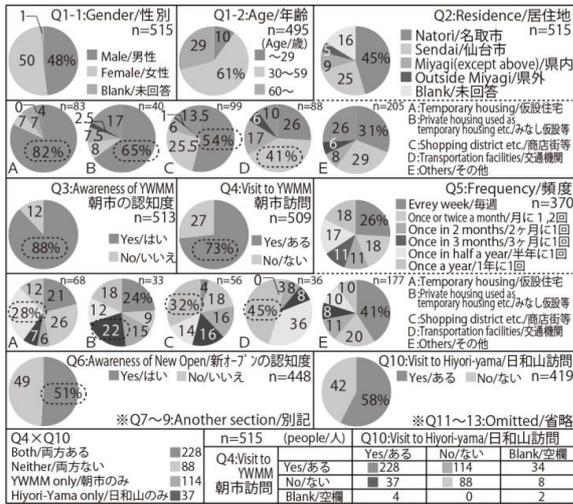


Fig. 6 質問ごとのニーズ調査集計(選択回答)

(15)次に属性ごとで利用頻度に見受けられなかったため、Fig.7に3つの複数回答の質問について全体での結果を示し考察する。集計方法は、指標として9項目を設定(安心・安全、利便性等)し、各回答内の具体的項目を抽出した。この抽出の際、9項目の内、複数該当する回答も存在する。その上で抽出量の多い順に集計している。

(16)Q7:朝市再建への期待は地場産、活気・賑わいといった好意的な意見が多く挙げられていた。Q8:朝市内への要望では、食事処、特産の要望と具体的な要望が多くを占めた。Q9:朝市周辺では、津波避難所への要望が特に多い点と公園・子供の遊び場を筆頭に余暇・憩いの場となる公共空間の要望が見受けられた。Fig.7にみられる質問で類似した回答が多くあったため、Fig.8に示すよう3つの設問に関する回答を合算し総量をグラフ化することでニーズの把握を図った。主な6項目、安心・安全、利便性、情報発信・外構、物販・飲食、他施設・用途、集客要素・企画に着目し、項目ごとに特徴を記す。加えて、[組合動向]としてアンケートを受けて、組合がどのような対応策を講じたのかに関してまとめる。

安心・安全:設問で防災や震災には触れていないが、安全への危機意識が確認できた。来場者や閑上地区を利用する人々へ安心・安全の確保は必須であるとわかった。

[組合動向]:避難誘導看板の設置を実施した。避難訓練への参加を来場者へ呼びかけるも、思うように参加者を動員できず組合員のみの小規模な避難訓練となった。

利便性:震災後の朝市敷地や閑上地区へのアクセスの悪さを解消して欲しいとの要望が多くあがった。また、朝市や閑上地区への送迎バス、駐車場の拡張を期待していること

がわかった。

[組合動向]: Fig.4からもわかるよう自動車以外の利用者数は少なく、朝市近郊にバスを含む公共交通機関での交通手段を持たないことが理由としてあげられる。アクセスを良くするために最寄り駅である JR 名取駅および市内に複数ある仮設住宅を巡回するシャトルバスを試験的に運行した。しかしながら、組合の自主事業として継続した運行を実施するには採算性からも困難であると組合は判断している。

情報発信・外構: Fig.6のQ3~6より、朝市の認知度は全体で88%と高いものの、プレオープン(2013年5月)から約半年後のグランドオープン時(2013年12月)の認知度は51%と低調であった。視覚情報・電子情報においての情報伝達の改善要望を確認した。

[組合動向]: 広告のほか、ホームページのリニューアルし、毎週開催するイベントなどの情報発信を行っている。事前に登録した人にはメールマガジンの配信に加え、SNSの定期的な投稿が継続的に行われている。

物販・飲食:朝市ならではの鮮度・地場産の品物への期待が多くを占めた。食事処・屋台、店種・品数への声が多く、飲食店の増加、多種多様な品揃えにより多世代が来場可能な場所が求められている。ほか営業時間の延長、頻度増加が期待されていた。

[組合動向]:再開当初は10時には閉店する店も多かったが、現在では営業時間を明確に定め、13時頃まで営業する努力をしている。また、飲食棟・交流棟内にフードコートを設置したことで、来場者の滞在時間が伸びる結果となった。

他施設・用途:多くの要望がトイレの設置であった。朝市開催時の混雑は震災以前より存在していた。また、休憩所・炭焼き場といった、休憩し、朝市で買った食材を調理できる場所が求められた。

[組合動向]:トイレは敷地内に2ヶ所設けて分散した利用を図るよう工夫を行った。また、イベント等も実施されるウッドデッキでは炉端焼きを行える環境を整え、来場者は新鮮な食材をその場で調理し食べることができるよう改善した。

集客要素・企画:朝市敷地内でのイベントに対する期待は多く寄せられていることがわかった。また、Fig.8のQ7朝市再建に特筆して期待されているものとして[ツアー・観光]があげられる。

[組合動向]:朝市主催の定期的なイベントとして笹かまぼこ、サンマ、せり鍋といった特産物の無料配布や、毎週開催される競り市により、賑わいを見せている。交流棟内では、津波被災時の状況を伝える映像展示などが常時流され、代表理事、スタッフが語り部として震災時の状況を日本語と英語で説明しており、被災地観光のルートとして、組み込む団体客も多い。次章にて4-1から4-3をもとに考察を行う。

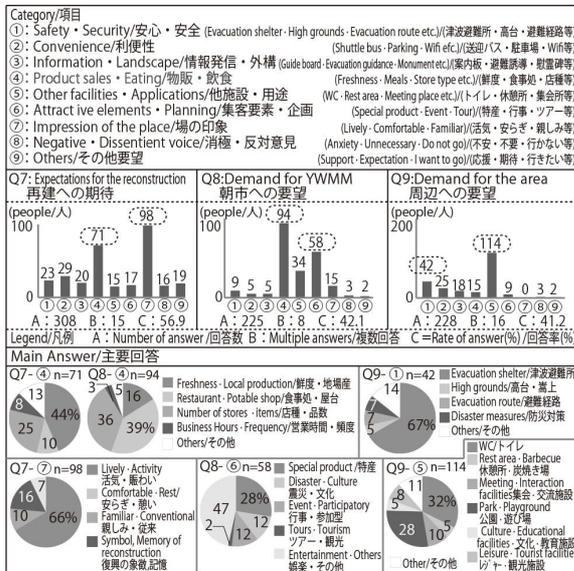


Fig.7 質問ごとのニーズ調査集計(自由回答)

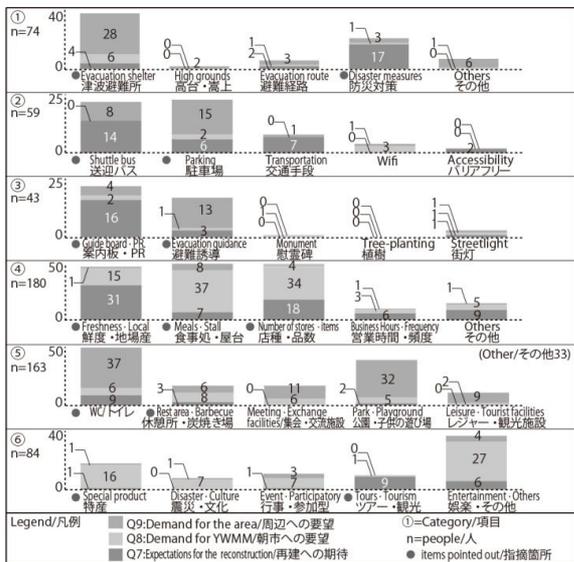


Fig.8 項目ごとのニーズ調査集計

4-4 まとめ

(17)4-1 では再建時に組合が受けた支援を、4-2 では組合と他地域・他団体との連携を、4-3 では朝市利用圏域のニーズとそれを取り入れていた朝市の自助努力を確認した。本研究における地域貢献についての知見を以下にまとめる。

段階的な再建過程(プロセス)：マスタープランを描き十分な資金により工期を確保し、時間をかけ一括で建設するのではなく、再建の過程で、段階的に得た資金を原資とし、大小関わらず段階的に建設を進め、その側で朝市を開催しながら年々朝市内事業数を増加させるなど、徐々に活気を創出していった。先に建設されたものを利用することで、組合内で向かう全体像を共有、補正し朝市復興を進めた。また、結果的に、再建過程を来場者へ「見える化」する事に繋がり、来場者が来るたびに建設・復興が進んでいる朝市を体験できる場「参加型復興の場」を生み出している。

復興需要(ニーズ)の実現：朝市は、組合の自助努力により、災害危険区域復興を推進する重要な組織となった。市街地が存在しない

特異な状況の中で、多くの来場者、売上と「憩いの場や交流の場」を創出してきた。その事は、企業立地希望者にとって、集客、売り場、就業環境の確保に寄与し同地区での再建や新規立地の足掛かりを与えている。

他組織との連携の重層化：組合内の小規模な集まりに留まることなく多様な組織と連携を段階的に創出した。それにより、有用な情報の確保、組合のみでは対応しきれない事案に対するセフティーネットとして連携を生み出した。それらの行動により、広く朝市復興が伝播され、土地画整備が進む閑上地区の地区復興の先導となる礎となっている。(18)地域住民や地域外の人々に親しまれた場所を、早期に再生する取り組みでもあった施設再建は、様々な人々を朝市を通して、被災した閑上地区へ足を運ばせ、閑上地区の「記憶の賦活」となり、災害危険区域内の現地再建による復興過程にある商業活動がもたらす場(空間)の地域貢献へと結果的につながる事となった特異な事例といえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

永野聡、日誌博文、山田俊亮、震災復興における地域商業拠点施設(ゆりあげ港朝市)に関するファイナンスの取り組み、パーソナルファイナンス研究, No. 3, pp. 15-22, 2017, 査読有

永野聡、日誌博文、山田俊亮、ゆりあげ港朝市を中心とした地域復興の取り組み、復興のプランニング I 都市計画委員会, Vol. 1, pp. 49-52, 2013, 査読無

〔学会発表〕(計2件)

日誌博文、宮城県ゆりあげ港朝市を対象とした復興過程に関する研究 震災前後の営業実績に基づく分析, 2016年度日本建築学会大会(九州) 学術講演会, 福岡大学(福岡県福岡市), 2016-08-24 - 2016-08-26

日誌博文、宮城県名取市ゆりあげ港朝市を対象とした津波避難対策に関する研究 - 組合員・来場者アンケート調査を通じて -, 2015年度日本建築学会大会(関東) 学術講演会, 東海大学(神奈川県平塚市), 2015-09-04 - 2015-09-06

6. 研究組織

(1) 研究代表者

日誌 博文(HIZUME, Hirofumi)  
 早稲田大学理工学術院総合研究所  
 招聘研究員  
 研究者番号: 40580296

(2) 研究分担者

永野 聡(NAGANO Satoshi)  
 国立大学法人三重大学  
 地域人材教育開発機構 講師  
 研究者番号: 80609149  
 山田 俊亮(YAMADA Shunsuke)  
 安田女子大学家政学部生活デザイン学科助教  
 研究者番号: 80580076